

もう桜が散り始めています。

西川祐子

2023/3/25 土曜日 20:43

相京範昭さま

貴重な時間を割いてくださり、ありがとうございます。体調たてなおしがなかなか思うように進まず、ご返事遅れました。ごめんなさい。

お隣の麦子さんが置いたマイクロフォンという小道具のおかげで、書庫が瞬時の舞台となり、相京さんが登場人物であると同時に演出家兼編集者として、八木秋子著作集の読者、そして日記抄の現在・未来の読者にたいして語られたのが、印象的でした。麦子さんは現在・未来の読者のひとりとして、わたしは『あるはなく』『著作集』『パシナ』以来の読者のひとりとして、観客席がおもわず舞台と会話した、という感じでした。編集後記あるいは前書、後書の内容骨子をお話くださった気がします。よかった。

あっというまに時間が過ぎて、どんなメディアを媒体として、どのような流通手段をとって読者に届けるか?? については何もお尋ねしなかったことに気づき、でもいつもそうだったなあ、とおかしくなりました。

「70年代(に受け取った)資料」ファイルを何気なく開けたとたん、1979年5月22日付けの古川三樹松さんからの封筒を見つけました。古河さんが複写してくださったらしい延島英一「大杉君の非軍備主義論」(1923・11・13)が入っています。複写に<大杉栄、伊藤野枝『労働運動』追悼号、大正13年3月1日号より>と、古河さんの筆跡による書き込みがあったので、先日の箱にあった翻刻版p.p.14-18で改めて読んでみました。

延島は大杉が、自分は軍人の子で軍隊教育をうけたからこそアンチ・ミリタリズム運動に一生を捧げたいと言ったことを覚えている、大杉はすでに明治41年2月20日の平民新聞に「非軍備主義運動」と題した文章を書いている、と記しています。この文の最後のほうで延島は、大杉がマフノを非軍備主義論者として高く評価、そして非軍備主義は第一大戦中の欧州では徹底的に弾圧され、欧州ではその投獄者たちの釈放運動がなされているところだと語ったと書いています。非軍備主義の内容をきちんと検討する必要があるでしょうけれど、その大杉が第二次大戦前夜に殺害されたことを考えると、21世紀の現在、戦争を止めるのが軍備と戦争だという偽の論理が急速に広がっていることと思ひ合わせて慄然とします。著作集Iを改めて読もうと思います。

お忙しいことと存じますが、どうか健康第一となさってください。

感謝。西川祐子